

ホーム名：グループホームあおやま2F・3F					
自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『自己決定を尊重し、その人らしい生活を支える』として理念を掲げたことで、職員本位にならずに必ず入居者の立場になってその方の想いを達成できる関わりに努めている。パート職員の方にも理念を意識して業務に励んでいただけている。	各フロアに入居者が書いてくださった事業所の「理念」が掲示されている。職員だけでなく、入居されている皆さんとご家族にも浸透していることが感じられる。日常生活の中で何度も「自己決定」の場面が出てその都度「その人らしさ」を大切にしながら支援している。	「理念」は職員に浸透している。認知症の高齢者が尊厳を持って暮らせるよう、これからも理念の共有と実践の継続を期待する。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近隣にイズミヤやお菓子店があり、職員と共に買い物へ出かけていただいている。ただその度合いは高くなく、今後はさらに地域に関わって行く必要がある。昨年度より近隣GHの方との交流会に引き続き参加できている。	自治会への参加はないが、事業所前に菜園があり、地域住民からの声かけや挨拶を交わすことはある。昨年開催されている近隣グループホームの方との交流では入居者がいつもと違う表情を見せてくれている。地域の祭りや法人の行事にも参加している。	もう少し外に出て他の方たちとの会話に触れさせてあげたいと管理者は考えている。入居者の体調を考慮しながら地域住民のボランティアの受け入れや園児などの子供達との交流などの機会を増やしていかれることを期待している。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や家族との話し合いの中で、GHでの取り組みや認知症の方への関わり方法をお伝えする事はあるが、地域の方へとなると、貢献はまだ努力が必要である。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二カ月に一度行っている会議での意見や情報・提案などを踏まえ、すぐに取り組めることは早急に、検討が必要な場合は上位会議で報告・相談して反映させて頂いている。	近隣にある認知症対応型デイサービスと合同でリビングにて隔月に開催している。リビングで行うことで入居者の日常の様子も理解してもらえというメリットもあり入居者自身も参加しやすい状況である。家族、区長、民生委員、市職員、包括からの出席を頂いている。	今後も市職員、入居者、家族、地域の代表者等に事業所での支援内容を明らかにすることにより認知症についての知識やグループホームの役割について理解を得て更に地域との連携に繋がっていく事を期待する。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	市の職員とも、介護保険上の事や加算に関する事、運営上に不明な点を相談させて頂くとすぐに回答を頂けていることから円滑な関係を構築させて頂いている。研修等の情報も積極的に頂けている。	運営推進会議に市職員が出席していることもあり法人として事業の相談や利用者の相談をおこなったり、グループホームとしても、直接意見交換できる機会が多い。	今後も市町村と連携し、地域全体で認知症の人を支えていく体制を作っていくことを期待する。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	身体拘束についてはGH職員のみならず、法人職員も禁止意識は高い。フロア内エレベーターについては暗証番号制御されており、誰かと共に外出して頂くシステムになっている。	転倒などの危険に繋がる可能性のある行動を、安全の為ただ否定してしまうのではなく見守りながら改善点を模索している。職員は介護事業所や、青山病院の学習会に参加する機会を持ちその内容は全員で共有している。転倒防止重視で家族の了解を得てセンサーマットを使用している入居者もいる。	職員は入居者が出来ることは一緒にし、入居者のペースで共に生活している。それによりちょっとしたサインも見逃さず、行動の陰に隠れている理由や、不安な気持ちに気づき対応を考え支援することが出来ているのだと感じた。今後も行動の意味を思い測り支援されることを期待する。
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の入り口には乱れた接遇があると考えている。言葉遣いから始まる多種の接遇面を職員皆が守る事が、ひいては虐待防止につながると考えている。虐待防止についての定期的な意識向上を行っている。		

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>一名の入居者が後見人制度を利用されている。弁護士との連絡もこまめに行っており関係性は円滑である。ただ、後見人制度そのものには学習不足は否めないことから、さらなる知識向上が求められる。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書・重要事項説明書を踏まえた説明でご了承いただいている。料金や加算の変更についても即時入居者家族に連絡しご了解いただいている。疑問が出ればすぐにご連絡頂ける関係性も構築できている。</p>		
10	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>上記にあるように疑問・提案・苦情があればすぐに連絡頂ける関係性はある。事業所で回答が難しい場合は上位会議にて議題としてあげている。玄関先には意見箱を設置している。</p>	<p>家族の来訪時には必ず入居者の最近の情報を伝えるようにしている。電話連絡や、物品不足の連絡と共に話をしたり家族との会話の機会を出来るだけ持つようにしている。意見箱は設置しているが意見苦情が入ることは無く何でも口頭で伝えてくれている。</p>	<p>どこの施設にせよ、家族を預けるということは非常に心配であり不安もありそして感謝もある。日頃からの“笑顔”でのコミュニケーションは家族にとっても大きな支えである。入居者を中心に家族と職員がしっかり意見交換できる環境の継続を希望する。</p>
11	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>月に一回、フロア単位の会議とGH全体の会議を開催している。会議一週間前には職員個々に議案を提出してもらい、回答を集め、皆の意見が会議内ですぐに話し合える状況を作っている。正職員やパートの意見が同等に扱われるように上位職は心がけている。</p>	<p>管理者は職員の意見や提案を止めることはしない。入居者の為にこうしてあげたい、という気持ちや大事にしたいと考えている。常勤、非常勤社員に対して同じ対応で職員の意見を尊重するよう心がけている。職員の想いをかき混ぜてしまわぬよう、声かけを重視しコミュニケーションを図る努力をしている。</p>	<p>介護職員が良い職務環境で仕事が出来るとは、利用者の満足感に繋がる。職員間のコミュニケーションが良いので今後も風通し良く、気付いた事を言いやすい職場環境を継続される事を期待する。</p>
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>春に人事考課を行っている。自己評価や直属上司による一次考課、管理上司による二次効果を行い、正当な評価が受けられるように取り組んでいる。考課表を示す事で職員自身も何をすべきことなのかを把握できる効果がある。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>GHには学習委員会を設置しており、自主研修・他事業所との合同研修を定期的に行っている。隣接している青山病院その他グループ事業で行われている参加可能な研修にも進んで足を運んでいる。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>近隣GHとのつながりを持つために『グループホームの集い』に参加している。一ヶ月に一度は管理者・計画作成担当者の集まりがあり、入居者・職員の交流の月もあり、それに参加している。</p>		

## II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居時のアセスメントはもとより、家族にも協力して頂き、その方の想いを教えて頂くような用紙を用意している。</p> <p>職員は入居者ごとの担当者を決めており、その方の想いが聞きだせるための馴染みの関係が築けるように心がけている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居時には家族の状況・不安・要望を必ず聞き取っている。入居直後は特に家族への情報提供は欠かせない。上記にある入居者ごとの担当者が月に一度『あおやま便り』という手書きのお手紙を写真を添えてお渡ししている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入居時には生活歴を聞き、その方の今ある状況を受け止め、その方に合った支援を提供するよう心掛けている。直後は絶えず家族と情報交換を行い、ケアの見直しや展開を相談している。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>調理・掃除などの家事については積極的に協力して頂いている。自立支援の観点でもあるが、「共に力を合わせて暮らしている」ということを入居者にもメッセージとして表したいための取り組みである。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族の訪問は多い。毎日昼食の介助に来て下さる方や、大きな行事には多数出席して下さるなど協力して頂いている事は多い。家族との繋がりをいつまでも持っていただけるように関わっており、家族もそれに応えて下さっている。</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>近隣にお住まいの方が多くことから、友人の面会も多い。誕生日に昔懐かしい店に食事に出かけるなどのレクリエーションを行っている。</p> <p>シルバー対象の旅行会社を利用して日帰りでのお出かけされる方もおられる。</p>	<p>お隣に住んでおられる方や町内会の方の面会がある。友人、親戚等馴染みの人との関係が継続されるよう支援している。近隣のグループホームの皆さんとの交流も楽しみの一つになってきている。</p>	<p>馴染みの関係を持つ人や場所との関係が途切れない支援と共に、昔その人が経験してきた事による潜在的な能力を引き出し、日常生活に組み込み、生きがいに結び付けられるような支援も期待する。</p>
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>GH自体の建物が広くない事も功を奏してか、入居者は一応にしてリビングに出て来られる。中には言い合いになり職員が仲裁に入る事もあるが、にぎやかにも楽しくお過ごしいただけている。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>過去に退居された方であっても、法人として、またGH職員として関わっていることは少なくない。病院が運営母体であることもあり医療面や、老健・デイ・小規模等の事業もグループ内にある事でいつまでも関係性を保持できている。</p>		

### Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	理念に『自己決定を尊重し、その人らしい生活を支える』とあることから、ケアマネジメントはもとより職員全員が入居者本位のケアを前提に行動している。	入居者一人一人に担当者をつけており、基本的に担当者を替える事は無い。それによりそれぞれの入居者の状態や想いを汲み取ることが出来ていると管理者は感じている。職員は常に入居者の想いや意向を大切にしている。	自分の変化について不安やおびえを抱えている認知症の方を身近で安心できる存在として支え、その人らしく生きる事が出来る支援、生活の質を高めていく支援を今後も継続されるよう期待している。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	入居時のアセスメントは生活歴や嗜好を教えて頂けるような用紙も用意している。直接の情報収集は当然行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者ごとの担当者を設置しており、その担当者が会議にてその方の心身状況の変化が見られれば発表し、全員が把握できる状況を作っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家人の面会が多く、プランに反映できるように会話の中でのニーズを逃さないように心がけている。月に一回行うフロア単位の会議にて入居者のプラン見直しの会議を設けている。チームでのサポートを行うためにもほぼ全員からの情報発信をうながしている。	本人と家族が何を望んでいるのかをその時々で確認しながらケアチェック表、モニタリング記録表等を基に管理している。個人記録のケア記録にそれぞれの短期目標が記載されており遅出の職員が毎日その日の達成度を確認している。	実施状況や本人と家族の満足度、今後の対応等をきめ細かくチェックしている。目標の中に好きなことや得意なことへの関わりなど、身体介護プラス生きがいに繋がることも今後更に増やしていくことを期待する。
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録をきめ細かく記載するとともに、情報メモという支援記録と気づきが記載できる書類を通じて職員間の情報共有を図っている。それに基づくモニタリングを計画作成担当者は実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	GHの建物の一階部分が通所リハとなっていることから、通所リハのPTに相談できる環境であり、そのPTもフロアに来てその対象者を直接に見たうえでの動作訓練を職員にできる環境である。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の利用については関わりは弱い。近隣のイズミヤへ買い物には行くが、その他の近隣施設を利用できているとは言い難く、課題である。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に関わっておられた馴染みのかかりつけ医に引き続き診てもらっている入居者は数名おられる。訪問診療を利用している方もおられ、定期的な健康管理が出来ている。	隣接地に在る事業主体が運営する青山病院が協力医療機関となっているが、強制はせず入居前のかかりつけ医を継続している方もおられる。2週間に1度の往診を受けられる方、また直接受診に行かれる方等入居者の状態によりそれぞれに合った医療支援がなされている。希望者は青山病院歯科による往診も受けられている。	「情報メモ」に受診の記録が残されており、入居者それぞれに適した受診支援がなされている。変化がなくても受診の結果を伝える事は家族の安心に繋がる。今後の取り組みに期待する。

31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>週に一回、隣接協力病院の看護職員が入居者全員の病状把握・相談・指導に来設している。訪問診療に同席する事も多く、医療との連携は円滑である。</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>医療法人が運営するGHである事から隣接の病院との連携は円滑である。医師・看護師のみならず、病院内の地域連携室からの情報は個人情報に留意しながらも行われ、入退院についてもスムーズに対応させて頂いている。</p>		
33	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居契約時に入居者及び家族に対して、当グループホームにおける指針の内容を説明した上で、入居者の重度化時及び急変時には重度化対応について話し合っている。また、GHでの生活継続が困難と思われる場合においても適切な施設への転居を提案させて頂くなど、入居者及びご家族の意向を踏まえながら話し合っている。</p>	<p>重度化した場合に於ける指針を設けており、入居契約時に説明をしている。ホームに於ける看取りについては、医療連携は出来ているが、ハード面（エレベーターの広さ）から難しいとの考えである。数名の方はホームでの看取りを願っている。</p>	<p>重度化した場合や終末期のあり方など本人の希望に副えることは、その人の尊厳を守る事につながる。早い段階で本人の希望や意思を確認しておく事は大切な取り組みと考える。家族の希望にも副える様に今後の話し合いに期待する。</p>
34	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>隣接の病院内研修においても、看護師・病院ワーカーが参加するような急変時対応研修があり、GH職員はそれにも可能な限り参加している。</p>		
35	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>災害時対応マニュアルを職員は周知していると共に、消防訓練も定期的実施している。運営推進会議を通じて近隣の方が参加・協力して頂けるような訓練にしていく。</p>	<p>直近の訓練（平成27・2・27）では3階エレベーター横の倉庫付近からの出火を想定し、通報・避難・消火の訓練を行った。訓練後課題として浮かび上がった点呼用の入居者名簿を作成し、すぐ持ち出せる状態に整備した。</p>	<p>幹線道路を挟んで向かいに消防署がある事で、安心感はある。地震時の対応についても、落ち着いて行動が取れるよう話し合っておかれると良いと思う。</p>

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>接遇に関しては職員に、介護する上での根本的な姿勢を教育している。日々の中でも声掛け・プライバシーの保護を十分注意したケアを実践するよう努めている。</p>	<p>入職時での法人オリエンテーションや日々の会議の中で、常に啓発している。特に、排泄支援での声かけに注意している。防水シートはベッドのシーツの下にセットされ、プライバシーにも配慮されている。</p>	<p>“その人をよく知る”と言う事を重点課題と考えている。その人をよく知った上で更に一人の人間として尊敬の念を持った言動で支援がなされる事を、今後も継続していかれたい。</p>
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>飲みたい飲み物の選択、衣服や野菜にかけるドレッシングの決定など、自己選択・自己決定できる環境では、必ず自分の意思を聞き、想いが反映できる生活づくりを行っている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>理念に沿ったケアを皆が実践することと、だれが主人公なのか、を絶えず意識する事で入居者本位のケアが実践できている。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>パジャマで過ごす、ということがないように入居者に無理なく声掛けし、ホーム内であっても人と会える装いで過ごしていただいている。出掛ける時などに化粧などして頂けるようなサポートを行っている</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事に関しては開設以来、職員が意識して入居者と関わっている。それにより入居者も炊事場に立つことがステータスになって入居者間で静いなる事があったので、当番制で行って頂いている。</p>	<p>業者から届くシルバー献立による食材で、時にはアレンジを加えながら入居者と共にホームで手作りしている。食材は品質が高く、業者には信頼を寄せている。季節の献立やホームでの手作り食もあり、入居者は食事を楽しみにしている。茶碗・湯のみ・箸は個人用を用い、目にも楽しい食事風景である。</p>	<p>楽しく食事が出来る事は健康にもつながる事で、大事な支援のひとつである。ミキサー食も品別にかけれ、見た目も大事にしている。誕生日の個別外食の支援も食を大きく位置付けていると感じた。職員も一緒にテーブルに着き、同じ物を食す…家族の食事風景であった。</p>
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている</p>	<p>食事については、委託業者がメニュー作成と食材配達を行っている。その為、栄養管理については問題がない。個人的な食事への留意については本人・家族と共に話し合っている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>口腔ケアについては研修を通じて知識・技術の向上に努めている。また、訪問歯科の医師・歯科衛生士から教えをいただくこともあり、それを実践している。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>必要な方については排泄チェック表を作成し、その方に応じたケアを提供するようにしている。出来る限りいつまでも布パンツを使用し、トイレで排泄できるように職員全員が尽力している。</p>	<p>「排泄チェック表」により支援されている方は3分の2程の方である。施設入所時には紙パンツで過ごされていた方が、職員の支援の下今では日中・夜間とも布パンツに変わられ、家族も大変喜んでおられるとのケースもある。</p>	<p>職員の、紙パンツに頼らない支援が布パンツだけで生活できるまでになったという良い例を聞かせて頂いた。骨盤底筋体操や筋力を鍛える運動等を取り入れながら、今後も自立の状態が長く続く様支援に努力されたい。</p>
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>水分補給や食事形態の検討、医師・看護師への相談・受診、家族への相談などあらゆる視点から予防に努めている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員も都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>曜日・時間を決めず、その方に聞きながら、気分の良い時に入浴を楽しんでいただいている。ただ、体調変化のリスクがある為、対応できる職員の手が多い9時から17時頃の入浴にして頂いており、夜間入浴は実施していない。</p>	<p>転倒に気を付け、安全な入浴に気を配りながら支援を行っている。シャワー浴の場合には、足浴でしっかり温もる様にしている。しょうぶ湯やゆず湯等、季節の楽しみもある。シャンプー・リンス・ボディソープは各個人持ちで好みの物を使っている。</p>	<p>湯換え・洗浄もその都度行われ、脱衣場の温度や風呂場の温度もしっかり管理されている。今後も1対1で触れ合える大切な時間を有効に使い、色々な話を引き出して行って欲しい。</p>

46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は設けず、自然と自身から床について頂けるように心がけている。昼寝についてはあまり寝過ぎにならないよう30分～一時間程度で声かけしている。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のしおりを確認して皆の薬についての理解を深めている。服用しづらい方には入れ物を用意するなど工夫をしている。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別プランには役割を位置付けており、「一緒に生活を作り上げている」ことを実感して頂けるよう、菜園活動や食事作り・清掃など共同生活の中での役割を持っていただいている。		
49	18 ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	その方の想いに添えるような外出などの援助を行っている。家族の協力も得ながら、外出・外泊も行っている。 H26秋より一部の方が月一回のペースでシルバー旅行会社を利用し外出できている。	初詣や花見、紅葉狩りなどの季節を楽しむ外出、また誕生日の食事外出などの支援を行っている。日帰りで、シルバー旅行会社を利用して外出される方もおられる。普段の生活の中で外出の機会をもっと増やしてあげたいという気持ちを持っている。	ホーム前に在る「あおやま菜園」は、近所の方々とも触れ合える格好の場である。毎日外気に触れる機会を、楽しみを交えて支援されたい。
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはGH内に個人での金銭持ち込みは禁止させて頂きている。しかし外出時の買い物・飲食や外食については前もって立て替えなどで対応し、買い物が楽しめる状況にはするように努めている。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話取り次ぎ要望は少なく、掛かってくれば取り次ぐ程度。友人からの手紙が届く方もおられる 家族あての年賀状を全入居者に作成して頂いている。		
52	19 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの窓が大きく、駐車場を挟んで幹線道路に面していることから日当たりが良く、木々の色付きを見て頂けたり風を感じて頂ける。季節の移り変わりが分かる環境である。 ホーム内は清潔を保つようにして、居心地が良い空間作りを行うように心がけている。	ホームは建物の2・3階を使っており、採光良く居心地のよいリビングとなっている。季節が感じられる壁飾りや貼り絵の作品が飾られている。新聞や週刊誌なども置かれ、自由に手に取る事ができる。毎朝、入居者が集う前に空気を入れ換え、室温・湿度にも気を配っている。	調度品や置物・額絵など、大人が寛ぐ落ち着いた空間となっている。エアコンは業者により定期的にクリーニングされている。今後も清潔に心掛け、居心地のよい空間を提供されたい。
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ハード自体が狭いことから、人同士が関われる環境ではあるが、一人になれる場所は居室のみである。もう少し小グループで関われるセミパブリックな空間があればなお良かった。		
54	20 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、タンスなどの家具も今まで本人が使用していた馴染みの物を置いて頂き、その場所を自分の居場所だと感じて頂くように、また、使いやすいように自由にレイアウトして頂いている。 食事の時は本人用の茶碗や箸・コップを使用して頂いている。	各居室、馴染みの品の持ち込みでその人らしい部屋作りとなっている。居室のエアコンや換気扇掃除は職員が定期的に行い、シーツ交換も毎週行われている。	布団はリースで、季節の変わり目に交換される。布団の天日干しは無理のようであるが、梅雨時には特に衛生に気を配られたい。
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア内は基本的にすべて自由な空間である。新聞を置き、雑誌を置き、パズルやドリルがある。居室には自分の趣味や好きな事に通じる物を置いて頂く事で、自分らしさ失わないようにして頂いている。		

V アウトカム項目		
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない